



2025年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月15日

上場会社名



株式会社メタリアル

上場取引所 東

コード番号 6182 URL <https://www.metareal.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 五石 順一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 グループ管理本部長 (氏名) 荒川 健人 TEL 03-6685-9570

半期報告書提出予定日 2024年10月15日 配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年3月1日～2024年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期中間期	2,124	0.6	291	△25.4	282	△32.7	198	△14.6
2024年2月期中間期	2,112	△2.3	390	61.5	419	55.3	232	111.9

(注) 包括利益 2025年2月期中間期 197百万円 (△15.1%) 2024年2月期中間期 232百万円 (111.9%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期中間期	18.43	18.29
2024年2月期中間期	21.78	21.42

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期中間期	5,225	1,857	35.5
2024年2月期	4,458	1,681	36.8

(参考) 自己資本 2025年2月期中間期 1,857百万円 2024年2月期 1,640百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年2月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,640	11.1	412	△44.8	—	—	—	—	—

- （注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
 2. 連結業績予想の修正につきましては、2024年10月15日公表の「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。
 3. 2025年2月期の連結業績予想の「経常利益」、「親会社株主に帰属する当期純利益」及び「1株当たり当期純利益」については、新規事業Metareal AIに伴う負債・資本両面での資金調達等の財務計画上の不透明さは軽減されているものの、営業外損益及び特別損益等の予測困難性が高い項目を含むことから、現時点では非開示としております。今後、予想の確度が上がった場合には、速やかに具体的な数値の開示をさせていただきます。

◆セグメントごとの連結業績予想

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期				
AI事業	3,430	12.2	670	△28.4
HT事業	1,010	△9.6	120	△17.6
メタバース事業	200	—	△200	—
その他本社費等	—	—	△177	—

- （注）今後の成長戦略であるMetareal AI関連売上の案件について、受託開発型や成果型準委任、使用権としてのライセンス等の形態が含まれております。それらの売上計上については成果物納品、検取時期やライセンス時期（及びライセンスにおける諸条件）によって売上計上時期が大きく異なっており、四半期毎の売上計上時期にも濃淡が発生します。当社の年度業績予想数値はそれらの四半期毎の濃淡を年度単位として均した結果であり、検取時期等のずれによる前後四半期への計上タイミング異動が発生する可能性があります。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年2月期中間期	10,888,060株	2024年2月期	10,768,460株
② 期末自己株式数	2025年2月期中間期	490株	2024年2月期	490株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年2月期中間期	10,795,917株	2024年2月期中間期	10,689,592株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(中間連結損益計算書に関する注記)	10
(1株当たり情報)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間(2024年3月1日～2024年8月31日)につきましては、AI事業は受注高及び営業利益は減少したものの、売上高は過去最高を更新し、HT事業においては対前年同期比における利益の減少が発生したものの、メタバース事業においては損失発生額が縮小いたしました。

結果、当中間連結会計期間における当社グループの売上高は2,124,642千円(前年同期比0.6%増)、営業利益は291,507千円(同25.4%減)、経常利益は282,507千円(同32.7%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は198,940千円(同14.6%減)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

前連結会計年度より、報告セグメントごとの経営成績をより適正に評価するため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を変更しております。当中間連結会計期間の比較・分析は、変更後の測定方法に基づいております。

①AI事業

AI事業におきましては、受注高は1,624,839千円(前年同期比3.1%減)となりました。売上高は受託案件等の影響により1,661,660千円(前年同期比6.9%増)となり、セグメント利益は新規事業である「Metareal AI」への先行投資の影響により451,391千円(前年同期比7.4%減)となりました。短中期の成長施策として2024年2月期より開発・提供を開始した「Metareal AI」プロジェクトに関しましては、早期での業績寄与を目指し、大手のお客様を中心に生成AIを活用した様々な提案、営業を開始し大型受注にも繋がっております。

②HT事業

HT事業におきましては、売上高は462,312千円(前年同期比16.8%減)となり、セグメント利益は38,088千円(前年同期比47.1%減)となりました。

③メタバース事業

短中期の成長施策を「Metareal AI」プロジェクトにシフトし、メタバース事業は10±5年の長期視座として投資額を減らしたことにより、売上高は669千円(前年同期比68.7%減)となり、セグメント損失は97,173千円(前年同期は118,708千円のセグメント損失)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は4,165,449千円となり、前連結会計年度末に比べ637,307千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が541,610千円増加、受取手形、売掛金及び契約資産が180,897千円増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ129,861千円増加して1,059,761千円となりました。これは主に、有形固定資産が172,490千円増加、無形固定資産が38,972千円減少したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は2,461,755千円となり、前連結会計年度末に比べ455,803千円増加いたしました。これは主に、短期借入金が100,000千円減少、前受金が87,980千円増加、未払法人税等が70,199千円増加したことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ135,339千円増加して905,958千円となりました。これは主に、長期借入金が110,360千円増加、社債が38,000千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は1,857,496千円となり、前連結会計年度末に比べ176,025千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が198,940千円増加したことによるものであります。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、3,619,948千円となり、前連結会計年度末に比べ541,483千円増加いたしました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは639,464千円の収入（前年同期は501,785千円の収入）となりました。

これは主に、税金等調整前中間純利益の計上334,891千円、未払金の増加額274,707千円、売上債権及び契約資産の増加額171,710千円、減価償却費の計上125,214千円、前受金の増加額87,980千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは247,838千円の支出（前年同期は52,606千円の支出）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出193,864千円、無形固定資産の取得による支出76,096千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは149,712千円の収入（前年同期は69,419千円の支出）となりました。

これは主に、長期借入れによる収入350,000千円、長期借入金の返済による支出172,996千円によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の経営上のテーマは以下の2点です。

①業種特化の専門文書をターゲットにしたAI翻訳の事業基盤を生成AI事業に拡大

「業種特化型の専門文書」を対象にしたAI翻訳として顧客に高く評価を受けた『T-400』等の専門文書データと6000社を越える顧客基盤を活用することによって、「業界特化の専門文書」に領域を絞ったまま、これまでの翻訳という狭い領域から文書作成における全工程に領域を拡大します。受託開発、共同開発、SaaSプロダクトによって、顧客が抱える専門文書作成に関わるスピード・人的工数等の課題を解決します。

昨年様々なAIソリューション商品・サービスの試行錯誤を重ねた結果として、AI翻訳と同様に「業種特化の専門文書」に集中・選択することに勝算（需要が確実にあり、かつ当社に優位性がある領域）が確信できたことから、今期の経営方針は利益最大化から成長加速に優先を切り替え、AI事業の売上拡大のための思い切った先行投資を行い、3年後（2027年2月期）の売上90億円（連結売上100億円）を目指します。

②メタバース事業におけるデジタルツインを自動生成するAI技術を活用した受託開発ソリューション提供の開始

メタバース事業は、10年±5年後以降での開花を想定する長期成長戦略として、「Metaverser」構想及びその手段としての「Metaverse×AI」を課題として取り組んでおりますが、特に今期からはデジタルツインを自動生成するAI技術を活用した受託開発ソリューション提供の開始に注力します。

デジタルツイン構築の従来手法としては「3Dレーザースキャン」「平面キャプチャ画像の組み合わせ」が存在しましたが、前者は手間とコスト、後者は視点・視野に制限があるなどの課題がありました。そこで、次世代の3D空間構成技術「Gaussian Splatting」によって、特別な機材や作業無しに、スマホで撮影した動画から簡単にフォトリアルなデジタルツインを自動生成するAIの受託開発ソリューションを提供します。ユースケースは建設・不動産・製造業を中心とした産業向けを想定します。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,077,184	3,618,795
受取手形、売掛金及び契約資産	210,127	391,025
棚卸資産	18,100	21,761
その他	229,434	141,691
貸倒引当金	△6,705	△7,823
流動資産合計	3,528,142	4,165,449
固定資産		
有形固定資産	60,997	233,487
無形固定資産		
ソフトウェア	419,465	379,673
ソフトウェア仮勘定	2,837	7,031
その他	10,090	6,715
無形固定資産合計	432,393	393,421
投資その他の資産		
投資有価証券	142,542	140,867
その他	327,232	316,064
貸倒引当金	△33,266	△24,079
投資その他の資産合計	436,508	432,852
固定資産合計	929,899	1,059,761
資産合計	4,458,042	5,225,210
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65,323	53,979
短期借入金	100,000	—
1年内返済予定の長期借入金	400,980	467,624
1年内償還予定の社債	164,000	194,000
未払法人税等	88,954	159,154
賞与引当金	45,632	47,359
前受金	814,062	902,043
その他	326,998	637,594
流動負債合計	2,005,951	2,461,755
固定負債		
社債	359,000	397,000
長期借入金	398,570	508,930
その他	13,049	28
固定負債合計	770,619	905,958
負債合計	2,776,571	3,367,714
純資産の部		
株主資本		
資本金	792,541	802,289
資本剰余金	1,766,488	1,776,235
利益剰余金	△918,731	△719,790
自己株式	△986	△986
株主資本合計	1,639,312	1,857,747
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,011	△251
その他の包括利益累計額合計	1,011	△251
新株予約権	41,146	—
純資産合計	1,681,470	1,857,496
負債純資産合計	4,458,042	5,225,210

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
売上高	2,112,250	2,124,642
売上原価	658,767	655,882
売上総利益	1,453,483	1,468,759
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	378,257	384,160
研究開発費	73,063	95,450
賞与引当金繰入額	147	3,372
退職給付費用	3,656	3,563
その他	607,780	690,705
販売費及び一般管理費合計	1,062,904	1,177,252
営業利益	390,578	291,507
営業外収益		
受取利息	35	247
為替差益	1,347	—
助成金収入	16	—
未払配当金除斥益	—	203
貸倒引当金戻入額	46,455	—
キャッシュバック収入	283	184
その他	1,550	388
営業外収益合計	49,688	1,024
営業外費用		
支払利息	5,322	4,225
持分法による投資損失	10,829	1,648
社債発行費	3,088	3,463
為替差損	—	324
その他	1,154	362
営業外費用合計	20,395	10,024
経常利益	419,871	282,507
特別利益		
固定資産売却益	831	2,466
投資有価証券売却益	—	19,999
新株予約権戻入益	—	41,146
特別利益合計	831	63,613
特別損失		
固定資産除売却損	—	930
減損損失	2,826	10,297
特別損失合計	2,826	11,228
税金等調整前中間純利益	417,877	334,891
法人税等	185,018	135,951
中間純利益	232,859	198,940
親会社株主に帰属する中間純利益	232,859	198,940

(中間連結包括利益計算書)
(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
中間純利益	232,859	198,940
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△1,262
その他の包括利益合計	—	△1,262
中間包括利益	232,859	197,677
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	232,859	197,677
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	417,877	334,891
減価償却費	195,719	125,214
のれん償却額	3,354	—
減損損失	2,826	10,297
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△54,601	△8,069
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,717	1,727
受取利息及び受取配当金	△35	△247
持分法による投資損益 (△は益)	10,829	1,648
固定資産除売却損益 (△は益)	△831	△1,535
助成金収入	△16	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△19,999
新株予約権戻入益	—	△41,146
支払利息	5,322	4,225
社債発行費	3,088	3,463
前受金の増減額 (△は減少)	115,071	87,980
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△59,118	△171,710
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△7,441	△3,660
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5,807	△11,344
未払金の増減額 (△は減少)	△3,441	274,707
未払費用の増減額 (△は減少)	6,234	80,090
未払又は未収消費税等の増減額	2,265	△47,972
その他	△12,706	18,647
小計	615,872	637,207
利息及び配当金の受取額	35	247
助成金の受取額	16	—
利息の支払額	△5,322	△4,225
法人税等の支払額	△167,721	△79,360
法人税等の還付額	58,905	85,594
営業活動によるキャッシュ・フロー	501,785	639,464
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,860	△193,864
有形固定資産の売却による収入	831	2,066
無形固定資産の取得による支出	△50,008	△76,096
無形固定資産の売却による収入	—	400
投資有価証券の売却による収入	—	20,000
貸付けによる支出	△700	△708
貸付金の回収による収入	1,130	364
投資活動によるキャッシュ・フロー	△52,606	△247,838
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△100,000	△100,000
社債の発行による収入	146,911	146,536
社債の償還による支出	△67,000	△82,000
長期借入れによる収入	150,000	350,000
長期借入金の返済による支出	△197,990	△172,996
リース債務の返済による支出	△13,338	△11,322
新株予約権の行使による株式の発行による収入	11,996	19,494
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△69,419	149,712
現金及び現金同等物に係る換算差額	△931	144
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	378,827	541,483
現金及び現金同等物の期首残高	2,542,027	3,078,464
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,920,855	3,619,948

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	AI事業 (注) 3	HT事業	メタバース事業	計		
財又はサービスの種類別						
機械翻訳	1,386,851	16,281	—	1,403,133	—	1,403,133
人間翻訳	26,547	539,211	—	565,759	—	565,759
メタバース	—	—	2,139	2,139	—	2,139
受託開発	141,218	—	—	141,218	—	141,218
顧客との契約から 生じる収益	1,554,617	555,493	2,139	2,112,250	—	2,112,250
収益認識の時期別						
一時点で移転される 財又はサービス	124,658	485,654	1,111	611,424	—	611,424
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	1,429,958	69,838	1,028	1,500,825	—	1,500,825
顧客との契約から 生じる収益	1,554,617	555,493	2,139	2,112,250	—	2,112,250
外部顧客への売上高	1,554,617	555,493	2,139	2,112,250	—	2,112,250
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,209	24,839	39	28,088	△28,088	—
計	1,557,827	580,332	2,178	2,140,338	△28,088	2,112,250
セグメント利益 又は損失(△)	487,550	71,945	△118,708	440,787	△50,208	390,578

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△50,208千円には、セグメント間取引消去120,373千円、報告セグメントに帰属しない全社費用△170,582千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であり、

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 生成系AI関連売上は、プラットフォーム型売上については「機械翻訳」に含まれており、受託開発関連売上については「受託開発」に含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ 当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	AI事業 (注) 3	HT事業	メタバース事業	計		
財又はサービスの種類別						
機械翻訳	1,354,145	13,125	—	1,367,271	—	1,367,271
人間翻訳	32,544	449,186	—	481,731	—	481,731
メタバース	—	—	669	669	—	669
受託開発	274,970	—	—	274,970	—	274,970
顧客との契約から 生じる収益	1,661,660	462,312	669	2,124,642	—	2,124,642
収益認識の時期別						
一時点で移転される 財又はサービス	259,542	400,570	103	660,215	—	660,215
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	1,402,118	61,741	566	1,464,426	—	1,464,426
顧客との契約から 生じる収益	1,661,660	462,312	669	2,124,642	—	2,124,642
外部顧客への売上高	1,661,660	462,312	669	2,124,642	—	2,124,642
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,299	35,110	8,344	45,754	△45,754	—
計	1,663,960	497,422	9,013	2,170,396	△45,754	2,124,642
セグメント利益 又は損失(△)	451,391	38,088	△97,173	392,305	△100,798	291,507

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△100,798千円には、セグメント間取引消去120,415千円、報告セグメントに帰属しない全社費用△221,213千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 生成系AI関連売上は、プラットフォーム型売上については「機械翻訳」に含まれており、受託開発関連売上については「受託開発」に含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

当社グループにおける近年の業容拡大等の変化とともに全社的な経営管理の重要性が高まる中で、報告セグメントごとの経営成績をより適正に評価するため、本社機能における費用配賦について見直すことといたしました。このため従来、本社管理部門において行われた費用削減活動の効果は、セグメント利益の調整額に含めておりましたが、前連結会計年度より本社管理部門から各社への役務提供割合に鑑みて配賦計上する方法に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメント利益又は損失の測定方法に基づき作成したものを記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(中間連結損益計算書に関する注記)

(投資有価証券売却益)

前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)

当社が保有する投資有価証券のうち、国内非上場会社の新株予約権1銘柄 (VoiceApp株式会社) を売却したことによるものであります。

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
(1) 1株当たり中間純利益	21.78円	18.43円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益 (千円)	232,859	198,940
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 (千円)	232,859	198,940
普通株式の期中平均株式数 (株)	10,689,592	10,795,917
(2) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益	21.42円	18.29円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益調整額 (千円)	—	—
普通株式増加数 (株)	179,505	80,733
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	2020年7月14日開催の取締役会決議による第14回新株予約権は、権利行使期間満了により失効しております。 新株予約権の数 12,188個 (普通株式 1,218,800株)